

情報領域演習第二 K 演習
 第1回 課題 解答
 2017年6月17日土曜日改訂版

担当者: 小山 大介

研究室: 西4号館 210号室

e-mail: koyama@im.uec.ac.jp

URL: <http://www.im.uec.ac.jp/~koyama/k.html>

課題1 (Bayesの定理) 検品した製品が機械 A, B, C によって製造されたものであるという事象をそれぞれ A, B, C と書くことにする. また, 検品した製品が不良品であるという事象を E とする. すると,

$$P(A) = 0.1, \quad P(B) = 0.3, \quad P(C) = 0.6,$$

$$P(E|A) = 0.03, \quad P(E|B) = 0.02, \quad P(E|C) = 0.01$$

となる. Bayes の定理より,

$$\begin{aligned} P(C|E) &= \frac{P(C)P(E|C)}{P(A)P(E|A) + P(B)P(E|B) + P(C)P(E|C)} \\ &= \frac{0.6 \times 0.01}{0.1 \times 0.03 + 0.3 \times 0.02 + 0.6 \times 0.01} \\ &= \frac{0.006}{0.003 + 0.006 + 0.006} \\ &= \frac{0.006}{0.015} = \boxed{0.4}. \end{aligned}$$

課題2 (密度関数・分布関数・期待値(離散))

(1) 密度関数 $f(x)$ は次のようになる:

$$f(x) = \boxed{pq^{x-1}} \quad \text{for } x = 1, 2, \dots$$

ここで, $q := 1 - p$ である.

また, 確率の和が 1 になることは次のように示すことができる:

$$\sum_{x=1}^{\infty} pq^{x-1} = \lim_{N \rightarrow \infty} \sum_{n=1}^N pq^{n-1} = \lim_{N \rightarrow \infty} (1 - q^N) = \boxed{1}.$$

(2)

$$P(5 \leq X \leq 10) = \sum_{x=5}^{10} f(x) = pq^4 + \dots + pq^9 = \boxed{q^4(1 - q^6)}.$$

(3) 6月10日付けの資料に間違いがありました. 大変申し訳ありませんでした. 改訂しました.

次の公式(参考文献 [1] pp.53, 54 参照)を用いる:

$$\sum_{k=1}^{\infty} kr^k = \frac{r}{(1-r)^2} \quad \text{for } |r| < 1, \tag{1}$$

$$\sum_{k=1}^{\infty} k^2 r^k = \frac{r(r+1)}{(1-r)^3} \quad \text{for } |r| < 1, \tag{2}$$

$$\sum_{k=1}^{\infty} k^3 r^k = \frac{r(1+4r+r^2)}{(1-r)^4} \quad \text{for } |r| < 1. \tag{3}$$

- 平均 μ :

$$\mu = \sum_{k=1}^{\infty} kf(k) = \sum_{k=1}^{\infty} kpq^{k-1} = \frac{p}{q} \sum_{k=1}^{\infty} kq^k = \frac{p}{q} \frac{q}{(1-q)^2} = \boxed{\frac{1}{p}}.$$

ここで、4つ目の等式で(1)を用いている。

平均 μ が $\frac{1}{p}$ となることは直感と合う。

- 分散 σ^2 : $\sigma^2 = E[X^2] - \mu^2$ より、 $E[X^2]$ を計算すれば良い。

$$E[X^2] = \sum_{k=1}^{\infty} k^2 f(k) = \sum_{k=1}^{\infty} k^2 pq^{k-1} = \frac{p}{q} \sum_{k=1}^{\infty} k^2 q^k = \frac{p}{q} \frac{q(q+1)}{(1-q)^3} = \frac{2-p}{p^2}.$$

ここで、4つ目の等式で(2)を用いている。よって、

$$\sigma^2 = \frac{2-p}{p^2} - \frac{1}{p^2} = \boxed{\frac{1-p}{p^2}}.$$

- $E[aX + b]$:

$$E[aX + b] = a\mu + b = \boxed{\frac{a}{p} + b}.$$

- $E[X^3]$:

$$E[X^3] = \sum_{k=1}^{\infty} k^3 f(k) = \sum_{k=1}^{\infty} k^3 pq^{k-1} = \frac{p}{q} \sum_{k=1}^{\infty} k^3 q^k = \frac{p}{q} \frac{q(1+4q+q^2)}{(1-q)^4} = \frac{1+4q+q^2}{p^3} = \boxed{\frac{p^2-6p+6}{p^3}}.$$

ここで、4つ目の等式で(3)を用いている。

課題3(密度関数・分布関数・期待値(連続)) 分布関数 $F(x)$ は連続関数だから、各区間で x に関して微分すれば、密度関数 $f(x)$ が得られる:

$$f(x) = \begin{cases} 0 & \text{if } x \leq 0, \\ x & \text{if } 0 < x \leq 1, \\ 2-x & \text{if } 1 < x \leq 2, \\ 0 & \text{if } x > 2. \end{cases}$$

平均、分散および $\varphi(X) = aX + b$ と $\varphi(X) = X^3$ の期待値は以下のようである:

$$\mu = \int_{-\infty}^{\infty} xf(x) dx = \int_0^1 x^2 dx + \int_1^2 x(2-x) dx = \boxed{1}.$$

$$\sigma^2 = \int_{-\infty}^{\infty} x^2 f(x) dx - \mu^2 = \int_0^1 x^3 dx + \int_1^2 x^2(2-x) dx - \mu^2 = \frac{7}{6} - 1 = \boxed{\frac{1}{6}}.$$

$$E[aX + b] = a\mu + b = \boxed{a + b}.$$

$$E[X^3] = \int_{-\infty}^{\infty} x^2 f(x) dx = \int_0^1 x^4 dx + \int_1^2 x^3(2-x) dx = \boxed{\frac{3}{2}}.$$

課題4(Čebyševの不等式) $\mu = 170.9$, $\sigma = 5.2$ である。

$$P(X \leq 160.9) + P(X \geq 180.9) = P(|X - \mu| \geq 10)$$

Čebyševの不等式: $P(|X - \mu| \geq a\sigma) \leq 1/a^2$ を用いることを考える。ここで、 a は、 $a\sigma = 10$ より、 $a = 10/5.2$ とすれば良い。このとき、 $1/a^2 = 27.04/100$ なので、Čebyševの不等式から、身長が 180.9cm 以上または 160.9cm 以下の 17 歳男性は、17 歳男性全体のたかだか 27.04% であることがわかる。

参考文献

- [1] 森口 繁一, 一松 信, 宇田川 かね久, 級数・フーリエ解析, 岩波 数学公式 2, 岩波書店 (1987).